ひらく広場

原稿をお寄せください

ひらくの記事や表紙の感想、その他なんでもOKです。原稿（500字以内）には〒、住所、氏名（ふりがな、原稿掲載は匿名・イニシャル可）、年齢も書いてください。採用された原稿は文意を変えずに短くする場合があります。

あて先／小平市小川町二丁目1333番地
小平市次世代育成部青少年男女平等課
「ひらく広場」係　FAX 042-346-9200
byodo@city.kodaira.lg.jp

ひらく編集室はあなたにひらいています。

男女共同参画に思う諸々の事

「ひらく」35号の特集「男女共同参画していますか？」と興味深く読みました。

先日、職場の飲み会で夫の家事への参加の話題で盛り上がりました。洗濯物を干した後に妻に干し方を直されると凹むという男性がいる一方で、夫が干した洗濯物の干し方がひどいのでいつも直しているという女性がいて、どこの家庭もお互いに苦労があるんだなと妙に納得してしまいました。

知り合いの男性で、お子さんが生まれた時に育児休暇を取得した方が何人かいます。しかし、会社の上司から快く思われなかったり、2度目の育児休暇を取得しようとしたところ認めてもらえずあきらめた方などがいます。私自身は短期間でも育児休暇を取得してみようとは思いましたが、結局仕事の事が気になり取得しませんでした。

特集のアンケートでは、30代の男性は普通に家事に参加している様子が見受けられましたが、年代が上になる程まだまだ仕事中心の意識が強いんだなと感じました。自分の経験では、子供の時に母親の家事の手伝いをしていたことが、今になってそれなりに生きているのではないかと思います。

男女共同参画が広く実現されるには、今の親の世代が子供とも一緒に家事に参加することと、世の中が仕事中心から仕事と家庭の両立へと働き方を変えていくことが必要だと思います。まさに世代を超えた取り組みかな？　（櫻井良堅）

私が子を育てるということ。

昨年の6月4日、我が家に男の子が生まれました。現在7か月を過ぎ、すくすくと成長しています。男性も育児に参加することが社会常識になりつつある中、私自身は正直言えば、何が本当に必要なのかもわからない状態です。

泣いてる子供をあやす時に、どうしても私ではダメな時があります。おもちゃを与えても、だっこや、たかいたかいをしても泣き止まない。どうしてよいかわからずに子供の顔を覗き込むと、その視線の先にはお母さんがいつもいます。父親としては、少し切ない気がします。

子供が寝つかない時は、くちずさむ子守唄は、気づけば自分が子供の頃母親に歌ってもらった曲です。あの時の母親のぬくもりが不思議と蘇ってくるのは一体どうしてなのでしょうか。

寝返りをうった、歯が生えたなど日々の変化に感動すると同時に、奥さんの母親としての仕草を見て、今まで気づかなかった新しい魅力の発見に驚いています。子供とのかかわりを通じ、自分の親のありがたみを今まで以上に感じ、思い出すようになりました。

これから、子供に親として与えていく責任を痛感するとともに、子供からきっと多くを与えてもらい自分も共に成長していくのだろうと感じています。（亮パパ）

違いを認めた上で　男女共同参画

世間では、男性と女性はすべて平等であるべきだという考えの人が多い。これは正論のように見えるが大きな矛盾を含んでいる。人間も動物なので強い人、速い人、賢い人、器用な人いろいろいる。今までは男性と女性によってスタートから差がつけられた。

男性は威張っていても自分の食事さえ作れない人が多い。パートナーが病気になったり長期間出かけて、食事など家事の世話をする人がいないと何もできない人を結構見かける。料理研究家の中には「男性よ、自分の料理を自分で作って自立しよう！」という人も多い。

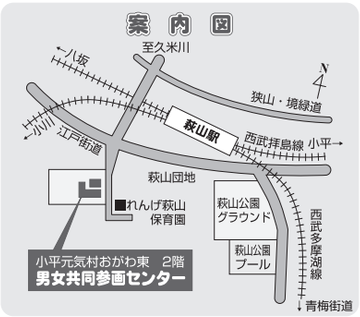
真の男女平等は小さいときから差別しないでいろいろ経験させ、適性に合った役割をさせるべきだと思う。女性でも男性より強い人、速い人、賢い人、生活力のある人は沢山いる。なぜ動物は雄が大きくて強いのか。オリンピック競技は男女別になっているのかを考えるべきです。女性は女性の適性を活かし、男性は男性の適性を活かしお互いの力を合わせると1＋1＝2ではなく無限大まで広がっていくと思う。（順介・G）

いちど
来てみませんか？
小平市男女共同参画センター
ひらく
（愛称）

小平市男女共同参画センター

〒187-0031 小平市小川東町4-2-1
小平元気村おがわ東　2階
042-348-2112（青少年センター兼用）
西武拝島線・西武多摩湖線　萩山駅南口より徒歩5分
※駐車場に限りがありますので、車での来館はご遠慮ください

●開館時間　午前9時～午後10時
●休館日　火曜日・年末年始・奇数月の第2日曜日
●利用対象者　利用登録団体・個人
●問合せ先　次世代育成部青少年男女平等課
042-346-9618



小平在住。在勤・在学の女性を訪ねて、
そのいきいきした様子や元気の素を伝えます。

いきいきレディ34

ハンディキャップをもつ子どもとその家族のコミュニティサークル

Poco-A-poco ポコアポコ代表
鶴田　淳子さん
（大沼町在住）

…同じ悩みを持つお母さんたちと話がしたい…

鶴田さんは障がいをもつお子さんと「母子通所施設トマト」に通っていました。そこで、いろいろな障がいをもつ子ども達とその母親達に出会い、子育ての悩みなどに共感して相談し、励ましあったりしていました。その後、子どもが成長して進む方向が別になり、苦しい時を共に過ごした仲間と離れてしまうので、会って話し合える場所が欲しいと思ったのがきっかけで、仲間の母親たちとサークルを作って、集い、楽しんだり、勉強したり、活動を始めたそうです。

それが徐々に形をなして、２０１２年４月にポコアポコという会を立ち上げました。　現在、毎月２回障害者福祉センターで母親の交流会、ランチ会、ピクニック、フリーマーケットなど楽しいことのほか、子どもの障がい理解、作業療法士による個別療育をしています。就学や将来のことをふまえて、勉強会などもしているそうです。

「平成26年度小平市市民活動支援公募事業」にも認められ、子育てママの応援プログラム（講演会・勉強会）を行っています。

…人生が変わった…

鶴田さんは「子どもを見てくれる先生はいても、母親のケアをしてくれるところがない」と思い、周りのお母さんたちのケアのために、セラピスト、ボディケアなどを学び深めて資格を取得し、さらに食育インストラクターも取得、心と身体の癒しを始めました。今では花小金井に店を持ち、仕事としています。

そして、「子どもが障がいを持っていたことは、自分が足りないことを教えてくれるために私を選んで生まれてきてくれたと思っている」と言いました。鶴田さんは、明るく前向きな方で、楽しい、やりたいと思うことをやったり、発信したりすると仲間の協力もあり実現していくそうで、少しずつ（Poco a poco）人生も変わって来たそうです。

お母さんがハッピーだと家族もハッピーだから、お母さんを支えたい、そして楽しい町になるようにと活動を続けている頼もしい女性です。

「表紙作品について」

アーティスト　**天田　ひろみさん**
（グラフィック・デザイナー、3児の母）

写真　長塚　秀人
撮影場所　カフェラグラス（美園町）

日常生活の中にあるハレとケ。ハレの日とは特別な非日常。ケの日とは普段の生活である日常のこと。

そんな「日常」を大切にし、そして家族と共に毎日の暮らしを楽しむことを提案している『日々ぷっぷ』というプロジェクトに参加している天田さん。

「日常生活にあるもので、〝ぷっぷ〟と楽しめることは結構あるんですよ！ 物と事と行為を大切にすることで〝ぷっぷ〟が増えますよ！」

暮らしの中のちょっとしたことに〝ぷっぷ〟をくっつける。そのちょっとしたことで、なんだか楽しい気持ちになり、笑顔になる。みんなの中に新たな〝ぷっぷ〟が芽生えてほしい。そんなコンセプトを基に、天田さんがイラストとデザインを担当した手作り絵本が完成した。

日常身近にある生活廃材を使用し、そのパーツを各人が組合せて完成させ、それを読んだり見たりして〝ぷっぷ〟と楽しめるスタイルの絵本であり、ワークショップも行われている。

表紙撮影時には、子どもたちが実際に絵本を作成した。〝ぷっぷ〟なパーツを組合せながら各自の作業や〝ぷっぷ〟エピソードに笑いが絶えなかった。

話をうかがった後、私の頭の中から〝ぷっぷ〟が消えず、なんだかずっと楽しい気分が続いている。このオノマトペひとつで日々の生活に笑顔が増えるのが実感できた。（愛）